

多彩な資料で紹介！

八代の「紙づくり」の歴史と製品の魅力

江戸時代の八代は和紙の名産地！



紙の産地として全国的に知られた宮地では、檀紙や奉書紙、水玉紙など高級紙を製造する技術が発達し、高い技術で藩の御用を務めた職人たちもいました。

明治時代以降、宮地では、新しい紙の製造や製紙会社の設立などが行われました。しかし、大量生産ができる機械製紙が主流となっていき、人々の生活様式の変化もあって和紙の需要は減少し、次第に紙漉きをする人が少なくなっていきました。



くようもん
九曜紋の紙櫃
(慶応元年・1865)
本館蔵・市指定文化財



五色水玉紙
(江戸時代中期～大正時代)
本館蔵



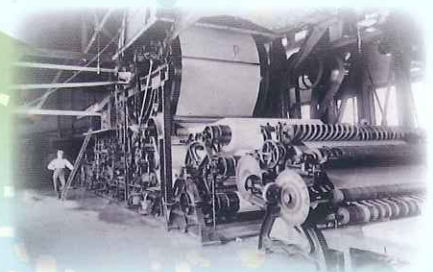
細川重賢所用紙子羽織
(江戸時代中期)
熊本市立熊本博物館蔵



明治10年内国勲業博覧会褒賞薦告状
(明治10年・1877)
個人蔵・本館保管

明治時代に坂本で始まった機械製紙

明治31年(1898)、坂本で機械製紙の工場が操業を開始しました。大正13年(1924)には八代工場も建設されます。八代の製紙会社は、社名の変更や合併・分割・廃止といった多くの変動を経て、現在は八代工場が日本製紙株式会社九州唯一の工場として操業を続け、新聞用紙や上質紙などを製造しています。



王子製紙株式会社坂本工場全景
昭和8年～昭和23年(1933～48)
※いずれも日本製紙株式会社 八代工場蔵



九州製紙株式会社八代工場地鎮祭
大正12年(1923)



王子製紙株式会社製品標準見本
昭和14年(1939)



西日本製紙株式会社門標
昭和49年(1974)

【交通のご案内】

JR 鹿児島本線・肥薩おれんじ鉄道八代駅下車3km
九州新幹線新八代駅下車6km

バス 八代駅・新八代駅西口から「検察庁・法務局・市博物館前」
「北荒神町福祉センター前」「八代市役所前」いずれかのバス停下車

車 八代ICから八代港線に入り、田中西町交差点で左折(南下)
松浜軒前交差点を右折すく ※大型バス4台、普通車40台駐車可



八代市立博物館未来の森ミュージアム

〒866-0863 熊本県八代市西松江城町12-35 TEL0965-34-5555 FAX0965-33-9200
博物館ホームページ <http://www.city.yatsushiro.kumamoto.jp/museum/>